

論文番号 75

担当

国税庁 醸造研究所

題名 (原題/訳)

Alkohol, Herz und Kreislauf

アルコール、心臓と心臓血管系について

執筆者

Seiler C

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Ther Umsch 57 (4) 200-204, 2000

キーワード

アルコール 健康 病気 冠状動脈性心疾患 心臓 血管

要旨

ここでは、飲酒による循環器 (心臓) 系の影響について、適量 (少量) 飲酒による有益性と大量飲酒による悪影響について様々な報告を参考としながら紹介した。

多くの疫学研究事例より適度なアルコールの飲酒と冠状動脈性心疾患の減少は示されている。すなわち1日あたり1, 2杯の飲酒は約30~50%冠状動脈性心疾患のリスク減少をもたらす (Jカーブ効果の報告)。

適度な飲酒が冠状動脈性心疾患の低減をもたらす機構として、HDL コレステロールの増加や血液の凝血作用の緩和、また、アルコール以外の成分特に黒ビールや赤ワイン中に含まれる抗酸化物質についての報告がある。

心臓血管系におけるアルコールの有害性として、うっ血性心筋症、高血圧、脳中の血管に及ぼすことがある。また、一生涯に飲んだアルコール量と左心室の駆出分画 (心収縮機能の指標) の減少量との間で直線的な相関関係が見られる。